

# トラック輸送情報（平成16年5月分）

平成16年 8月 3日  
国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課  
担当：高橋、荒木 内線28315  
直通：03-5253-8342  
ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

## 1. 特別積合せ貨物

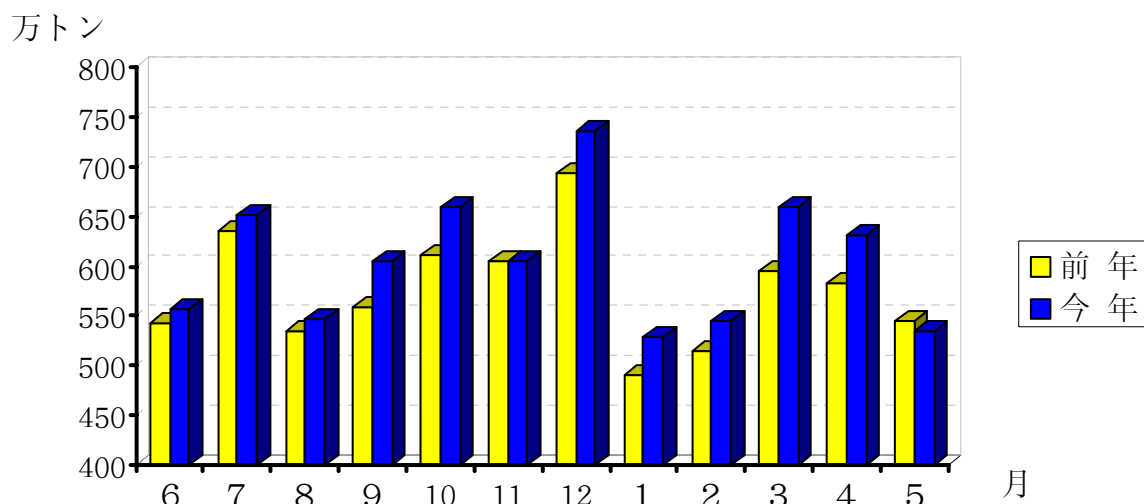
### (1) 本月の概況

調査対象32社( )の本月の輸送量は、5,342,156トンで、前月と比べ、総輸送量が約96万トン減少したため、前月比84.7%（季節調整済み95.1%）、前年同月と比べると、約11万トン減少したため、前年同月比98.1%の実績であった。

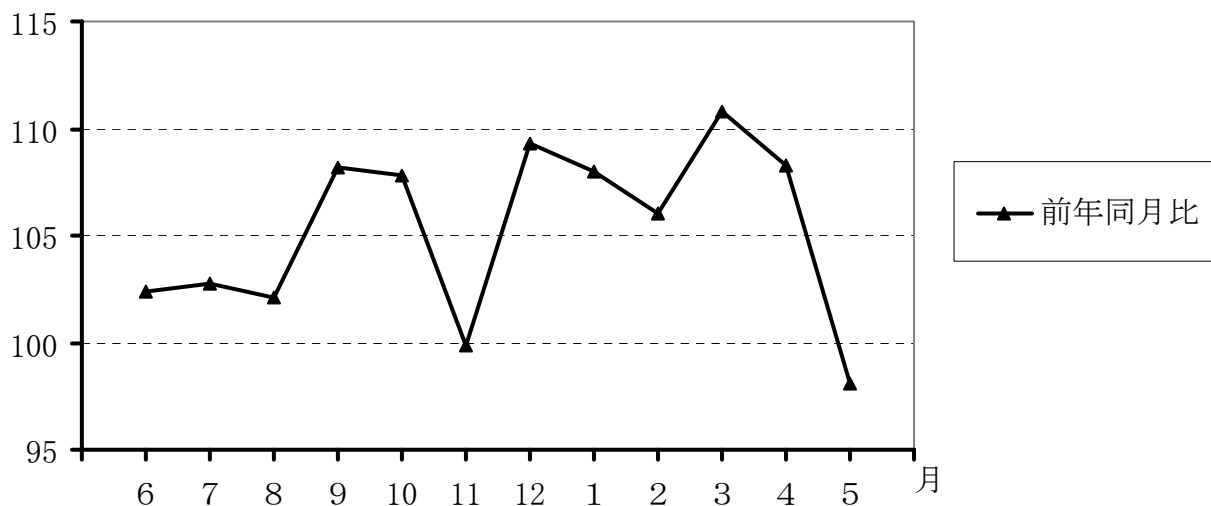
なお、平均稼働日数は、21.8日で、前月と比べ、1.6日の減少、前年同月と比べると、1.7日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、245,053トンで、前月と比べ、約2万トン減少したため、前月比90.9%、前年同月と比べると、約1万トン増加したため、前年同月比105.7%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

( ) 調査対象のうち1社に経営形態の変更（分社化）が行われたため、4月分より調査対象が32社となったが、対前年同月比並びに対前月比についての影響はない。

(図1-1) 32社の輸送トン数の推移

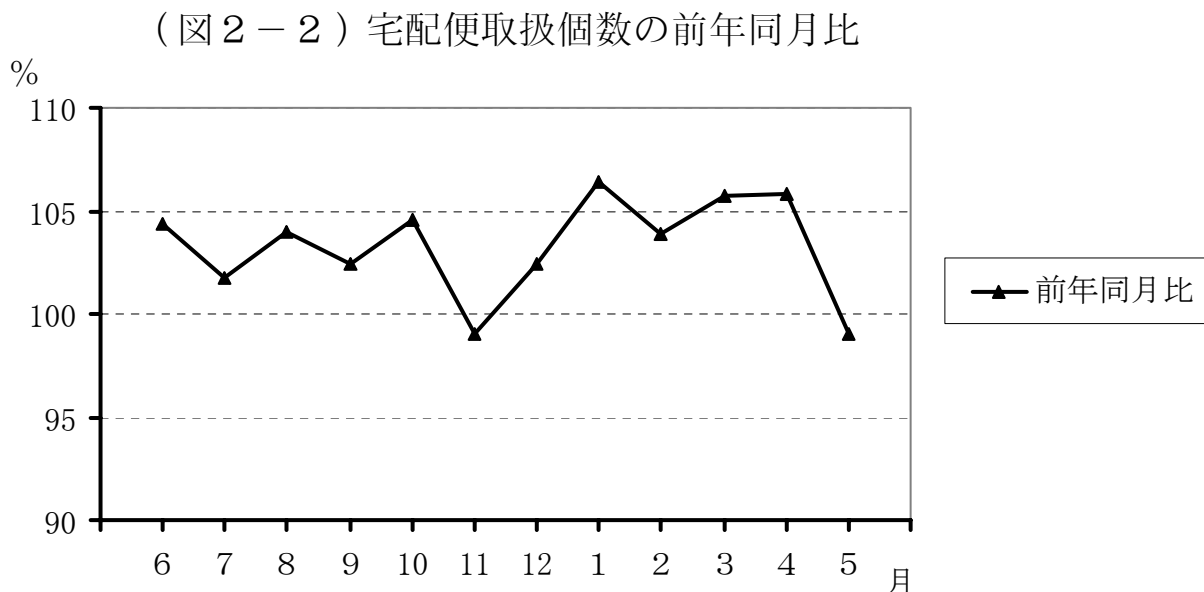
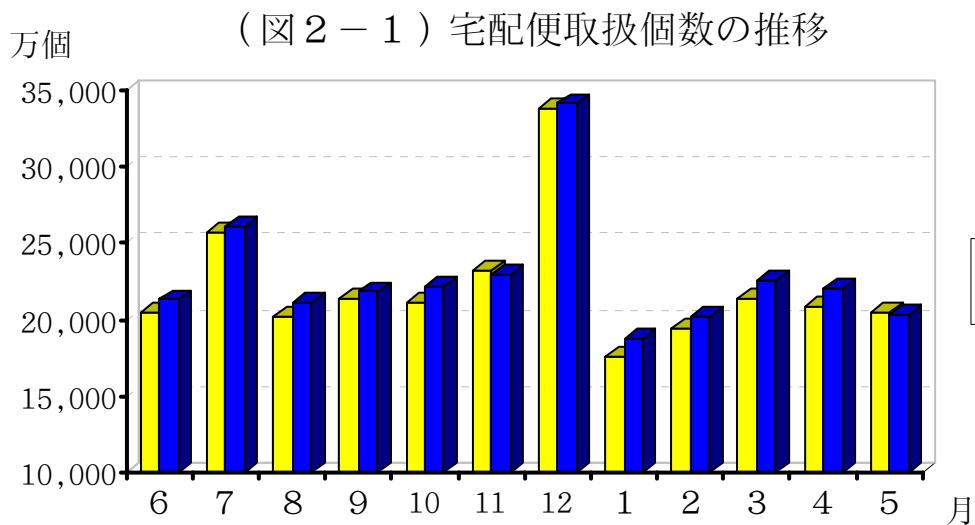


(図1-2) 32社の輸送トン数の前年同月比



## ( 2 ) 宅配便の概況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、202,995千個で、前月と比べ、約 1,732万個減少したため、前月比 92.1% ( 季節調整済み 98.8% )、前年同月と比べると、約 210万個減少したため、前年同月比 99.0%の実績であった。( 図 2 - 1、図 2 - 2 参照 )



## ( 3 ) 品目別及び地域別輸送状況 ( 表 1 参照 )

前月と比べると、大型連休に伴う稼働日数減少の影響により、ほぼすべての品目で輸送量の減少を示している。理由としてはほとんどの品目で工場・生産地、商社・問屋や倉庫等からの貨物減を主な理由としている。地域的には農水産品以外の品目においては関東、近畿地区を中心に全国的な輸送の減少が見られた。農水産品は東北、関東、中国地区で輸送の増減が見られた。

前年同月と比べると、大型連休の暦の配列の影響により稼働日数が少なかったため、ほぼすべての品目で輸送量の減少を示した。理由としては前月比と同様、ほとんどの品目で工場・生産地、商社・問屋や倉庫等からの貨物減を主な理由としている。地域的にも同様に農水産品以外の品目においては関東、近畿地区を中心に全国的な輸送の減少が見られた。また、その他 ( 百貨店配送品 ) はデパート等からの貨物減もみられた。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因		
	著 増	増	変 らず	減	著 減					
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	12	1	2	野菜	中国	4	
								野菜、その他農産品、水産物	関東、東北	4
	金属製品			17	7	2				
								建築用金属製品、その他の金属製品	関東、大阪	4,5,7
	機械	1		12	12	2	家電品、電子部品	関東	4	
	化学工業品			12	14	2				
								合成樹脂、その他の化学工業品	関東、神奈川、大阪、近畿、中国	4,7
	繊維工業品			17	9	2				
								織物	東京、中部、兵庫	4,7
食料工業品			9	14	4					
							加工食品、飲料	東北、東京、神奈川、関東、大阪、兵庫、近畿	4,5,7	
日用品			11	12	4					
							書籍、その他の日用品、身廻品	東京、神奈川、関東、大阪、近畿、全国	4,5,7,8	
その他	1		16	7	2		東京、神奈川	2		
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		1	16	1		中国	4		
	金属製品		1	19	6					
	機械	1		19	7					
							電気機械、その他の機械	関東、愛知、大阪、中国	4,5	
	化学工業品			16	11	1				
繊維工業品			19	8	1					
食料工業品			18	9						
										加工食品、飲料
日用品			14	13						
										書籍、衣類、文具、その他日用品
その他	2		17	7						
										宅配貨物、百貨店配送品
							宅配貨物、百貨店配送品	神奈川、関東、全国	2,4	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2 . 一般貨物

### ( 1 ) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 853社 / 調査対象事業者数 1,071社）の輸送量は、前年同月比 97.3%、前月比 97.7%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	97.3%	95.8%	95.2%	97.7%	94.6%	95.9%	99.9%	99.7%	98.4%	100.5%	102.6%
前 月 比	97.7%	114.9%	96.0%	91.5%	92.9%	92.7%	93.9%	88.8%	94.8%	92.6%	93.3%

### ( 2 ) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	季節的な需要の「日用品」や「飼・肥料」等の農業関連品が一段落し減少傾向を示した。融雪期を迎えて各種工事が活発化してきたことに伴い、「砂利・砂・石材」等の工事関連資材の輸送が増加した等により、対前月比114.9%となったが、昨年に比べて稼働日数が減少したことにより対前年同月比は95.8%となった。今後の見通しは、工事関係の本格化に伴って工事関連資材の輸送の増加が期待でき、輸送量は次月及び以降とも上昇傾向で推移するものと思われる。
東北	本月は、大型連休により先月及び昨年よりも実働率が下がったこともあり、全体的に輸送量が減少した。品目別でみると「その他石油製品」「紙・パルプ」「食料工業品」等の減少が目立った。このため、対前月比は96.0%となり、対前年同月比は95.2%であった。今後の輸送見通しは次月及び以降ともほぼ横ばい傾向にある。
関東	本月の輸送は、大型連休による稼働日数減少のため、全体的に前月よりも減少している。また、季節の変わり目により、「野菜・果物」や「食料工業品」を中心に輸送の減少が見られた。このため、対前月比91.5%となり、対前年同月比も97.7%と減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にある。
北陸信越	大型連休があったため、稼働日数が減少した。また、品目別では、5月に入り公共工事が減少したことから「金属製品」「機械」「その他窯業品」等が目立って減少し、また、冬期終了により、「その他の石油製品」も減少している。このため対前月比92.9%、対前年同月比94.6%ととも大きくマイナスとなった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向にある。
中部	本月の輸送は大型連休のため、対前月比は92.7%、対前年同月比も95.9%とともに減少した。主な減少品目としては「機械」「その他の石油製品」が季節的需要で、「水産品」「紙・パルプ」が工場・生産地からの貨物減を理由に減少している。今後の輸送見通しについては次月及び以降とも若干の増加が見込まれる。
近畿	大型連休のため稼働日数が減少し、その分輸送量も前月比93.9%と減少した。品目別では「非鉄金属」「日用品」「その他の製造工業品」の減少が目立っている。前年同月比99.9%とほぼ横ばいとなっている。今後の輸送見通しについては次月及び以降についてもほぼ横ばいと予想されるが、輸送事業者の見通しは依然厳しいものとみている。
中国	本月の輸送は、大型連休による稼働日数の減少により、全体的には対前月比88.8%、対前年同月比も99.7%と共に減少している。輸送量が増加した品目として「穀物」があるが、季節的なものと思われる。また、「砂利・砂・石材」「セメント」等土木関係品目等を中心に輸送の減少が見られた。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降共にやや下降傾向にある。
四国	本月の輸送は、連休があり稼働日数が少なかったこともあり、対前月比94.8%と減少した。季節的需要を理由として、「野菜・果物」「その他の石油製品」「紙・パルプ」「食料工業品」の輸送量の減少が見られた一方、「食料工業品」ではジュース等の飲料水の増加が見られた。対前年同月比も98.4%と減少した。今後の輸送傾向はほぼ横ばいである。
九州	今月は、大型連休により稼働日数が少なかったため、全体として輸送量が減少した。特に、工事件数の減少を原因として「砂利・砂・石材」、天候や季節的需要の影響による「食料工業品」、引越シーズンが終了したことに伴う「取り合せ品」等の品目で輸送量減少が目立った。一方で、一部の地域では農産物の出荷時期を迎えており、その影響で「野菜・果物」の輸送量が増加した事業者もあった。この結果、対前月比92.6%、対前年同月比100.5%となった。今後の輸送の見通しは、しばらくの間減少の傾向のようである。
沖縄	本月の輸送は、「穀物（米）」「水産品（マグロ）」「食料工業品（飲料）」の輸送需要増加がみられたが、「その他の農産品（切り花）」「畜産品（牛）」「取り合せ品（引越貨物）」で季節的需要減による減少が見られた。このため、対前月比では93.3%、対前年同月比では102.6%となった。今後の輸送見通しについては、次月以降季節品の増加傾向が見込まれると予想される。

## (3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりとまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局	北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
			海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
			道			信							計
					越								
1. 穀物	増		0	0	0	1	0	0	2	0	2	1	6
	減		2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	5
2. 野菜・果物	増		0	1	1	1	0	0	0	0	7	0	10
	減		0	0	3	1	0	0	0	3	4	0	11
3. その他の農産品	増		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減		0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	4
4. 畜産品	増		1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
	減		0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
5. 水産品	増		2	0	0	0	0	1	0	0	1	1	5
	減		1	1	0	1	1	1	0	0	2	0	7
6. 木材	増		3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	6
	減		2	2	0	1	0	0	0	0	5	0	10
7. 薪炭	増		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減		0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
9. 金属鉱物	増		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10. 砂利・砂・石材	増		20	3	0	2	0	0	1	1	1	0	28
	減		6	0	0	2	0	1	4	0	5	0	18
11. 工業用非金属鉱物	増		2	1	0	0	0	0	0	0	2	0	5
	減		0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	3
12. 鉄鋼	増		1	2	0	1	0	1	3	0	0	0	8
	減		1	0	1	2	0	1	4	0	1	0	10
13. 非鉄金属	増		0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	3
	減		0	1	0	1	0	2	0	0	1	0	5
14. 金属製品	増		0	0	1	1	0	0	0	0	3	0	5
	減		0	1	1	3	0	0	0	1	3	0	9
15. 機械	増		0	0	1	2	0	2	0	1	3	0	9
	減		0	2	2	3	2	1	1	0	1	0	12
16. セメント	増		3	1	0	1	1	0	0	0	3	0	9
	減		1	3	0	0	0	1	6	1	4	0	16
17. その他の窯業品	増		2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	減		0	2	1	4	1	0	0	2	2	0	12

品目	運輸局	北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	北	東	陸	中	畿	国	国	州	縄	国
		道			信	部						計
					越							
18. 揮 発 油	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
19. その他の石油製品	増	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	5
	減	0	3	1	4	2	1	2	2	1	0	16
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
21. 化学薬品	増	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	減	0	0	0	1	0	0	3	2	2	0	8
22. 化学肥料	増	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
	減	3	2	1	0	0	0	1	0	1	0	8
23. その他の化学工業品	増	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
	減	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	4
24. 紙・パルプ	増	2	0	0	1	0	2	0	2	1	0	8
	減	1	4	1	0	1	1	2	1	3	0	14
25. 繊維工業品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
26. 食料工業品	増	1	3	0	0	0	0	0	3	6	1	14
	減	1	7	2	1	0	1	1	3	10	0	26
27. 日用品	増	0	0	1	1	0	1	0	1	4	0	8
	減	2	1	0	1	1	3	0	1	2	0	11
28. その他の製造工業品	増	0	1	0	0	0	0	2	0	1	0	4
	減	0	0	0	0	1	2	3	0	1	0	7
29. 金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. その他のくずもの	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	3	1	0	0	0	0	0	0	2	0	6
	減	1	1	1	0	0	0	1	0	5	0	9
32. 廃棄物	増	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	3
	減	0	0	1	0	0	0	3	0	1	0	5
33. 輸送用容器	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
34. 取り合せ品	増	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	2	0	2	0	1	0	2	4	1	12
35. その他	増	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1